

令和4年度 学校園評価シート

(様式2)

学校園名	加古川幼稚園
------	--------

教育目: 「やさしく たくましく」—豊かな体験を通して、学びに向かう力を育む—

2 基本方針

幼児一人一人の特性や発達を捉え、安心安全に園生活を送るための適切な援助や環境構成を工夫する。また、「幼児期の終わりまでに育てたい姿」を目指して学びに向かう力や協同性を養い、小学校や地域との関わりや体験活動を通して健康で主体的に行動できる幼児の育成を目指す。

3 指導目標

(1)健康で 明るい子 (2)自分で考え 行動する子 (3)優しく 思いやりのある子 (4)豊かに 表現できる子 (5)根気強く 最後まで頑張りぬく子

評価基準 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

重点目標	評価項目	達成状況	成果	課題と改善の方策	自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
基本的な生活習慣を確立する	◎健康で明るい子 ・挨拶や基本的な生活習慣の確立をめざし発達段階に即した生活を送ることができた。 ・幼児の体調、けが、事故などに関して敏感に対応し、特にコロナ禍での対応について健康チェックシートやスクリレの活用等保護者と連携を取りながら適切な処置を行っていた。また、遊具、施設点検を定期的に行い、安心、安全に過ごせるよう努めた。 ◎自分で考え、行動できる子 ・指導計画に基づいて、幼児が主体的に遊びたいような環境構成、遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供したり、展開に応じた環境の再構成をしたりした。また、一人一人の発達段階に応じた対応や視覚支援等を行うことで自信をもって行動できるよう支えた。	A	・友達と協力し合いながら、自分たちで生活を進めていく意識をもつことができた。園を自分たちの居場所と捉えて、喜んで過ごしている。 ・コロナ禍の中でも、昨年同様対策をとり幼児の経験が豊かになるよう努めた。また毎日の健康チェックシートの記入が習慣づき、保護者の健康・安全意識も高まっている。 ・幼児の主体性に重点をおき、好きな遊びを見つけ、遊びを通して、知識、技能、思考力、表現力、人間性など高まるように環境構成、援助に努めた。 ・支援を必要とする幼児には発達段階をふまえて個別にかかわり、スモールステップであるが、成長が見られるようになった。	・家庭で身に付ける生活能力には個人差がますます大きくなっており、幼稚園で指導が必要であることも増えている。カリキュラムを現状に合わせて見直すことや、保護者への啓発が必要である。 ・来年度からコロナ対策の方針が大きく変わる予定である。国や市の動向を把握し、園の現状に応じた対応が必要である。 ・視覚支援が思考力につながる場面もあるが、イメージや思いを言葉で伝えようとする機会を失わないよう配慮していきたい。 ・一人一人の様子や発達段階をしっかりと踏まえて指導計画を立てることが重要である。	・一人一人の様子に合わせて指導されていることがよく分かる。 ・幼児期に獲得すべき基本的な生活習慣を身に付けている。また遊びを通して人間性を高めるため創意工夫をされている。	A
身体を動かし体力を向上させる	◎根気よく最後まで頑張りぬく子 ・体幹を鍛える遊びを取り入れたり、竹馬やパカポコ等を通して集中して遊んだり、挑戦意欲を高めたりできるような支えを工夫した。 ・ドッジボールやサッカー遊び、なわとび等、戸外で思いきり体を動かしながら、クラス全員が競ったり、励まし合ったりしながら一つの遊びに集中して取り組めるよう支え、適度な競争心、充実感や満足感を味わえるようにした。 ・特に年長児は小学校に向けて小1プロブレム解消に向けた3つの遊びを中心としながら体力向上につながる遊びを計画的に行った。	A	・今年は縄跳びやフラフープも盛り上がり、幼児が自由に遊びを発展させたことで幼児同士の刺激があり、活動が広がっている。また園庭を広く使い、竹馬や縄跳びなどにも計画的に取り組んでいる。また、自然遊びを展開し、草花を求めて、南の庭や木の根本など様々な場所で遊ぶことから行動範囲が広がり、いろいろな草花や虫に興味をもち活動量も増えた。 ・学習に体力、体幹、筋力等、体作りが大切であることを保護者にも折を触れて説明し、共有した。幼児も体力が増え、集中力の持続が見られている。	・戸外遊びは様々な楽しんだが、男女の遊びの好みにもより教師の援助がないと遊びに偏りがある。今後も幼児の減少から遊びのバリエーションの幅が狭くなることも予想されるので、工夫や援助が必要である。 ・リズム、体を意識する経験から律動も大切である。教師がリズムカルにピアノを弾く技術が必要であるが、若い世代はピアノ経験が少ない事情もあり研修等対策が必要である。 ・好きな遊びの時間に行うことが多い竹馬や縄跳びの遊び方やそれぞれの力量を把握することが重要である。	・様々な遊びが経験できるよう工夫されている。 ・広い園庭で思いきり身体を動かせることの素晴らしさ、有難さを感じる。	A
様々な人とかわり、豊かな体験をする。	◎優しく、思いやりのある子 ・善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培う上でモデルとなり、教師自身が幼児の心を傷つけたり、人権を損なったりするような言葉や態度、関わり方をしないよう連携を心がけた。 ・四季折々の自然や生き物に対する感性を持ち、心や体をつかって表現したり、遊びに取り入れたり出来るよう保育実践や教材研究に努めた。 ・異年齢児との関わりや飼育栽培物の世話を通して、あこがれや思いやりの気持ちをもって接することができるような機会を設け、支えていった。 ◎豊かに表現できる子 ・一人一人の育ちに応じた認め、励ましを行い、学びに応じた環境を整え、運動会、音楽会、生活発表会等行事や様々な遊びへの意欲を高めていった。 ・幼児の気持ちに共感したり、一人一人の幼児の思いを把握しありのままを受け止めたりして内面理解に努め、思いを素直に表現できるように関わった。	A	・個別の遊びで互いの持ち味を知ったり、クラスの遊びで協同する楽しさを知ったりする事で、人と関わる良さを感じている。発達の個人差もあるが、互いの持ち味を活かしクラスで自分の強みをいかし自信につながる姿が見られる。 ・生活や遊びの中で幼児の思いを汲み取ったり、受け止めたりしながらコミュニケーションを取ることを心掛けた。トラブルの場面では善悪の判断ができ、友達への思いやりが芽生えるように心掛けたことが成長につながった。 ・様々な方法で思いを表現する楽しさを感じている。家庭での遊びがデジタルに寄っている幼児も多く、園での実体験の表現活動はより大切になっている。 ・2学期後半は好きな遊びで創作活動が豊かになった。また3学期は総合的な表現で劇作りに没頭した。物語に触れる感動体験が国語力にもつながった。	・幼児一人一人の個別の力、援助が求められるが、集団での活動や成長も同時に大切である。今年度、1学期はそれぞれの学びをカット絵にして掲示して共通理解できるようにしたり、遊びの様子を写真にしたりした。様々な方法を教師が知り、実践することが必要である。 ・生き物の世話が好きな子に偏ることもあった。少ない人数を工夫しながら当番活動を継続して行っていなかったことが反省であり、来年度工夫、改善していきたい。 ・園児数が減ってきていることで発達差も大きい。縦割りの遊びを増やし、一緒に活動する場を増やすなど検討していきたい。そのためにも教師がそれぞれの発達段階にふさわしい遊びや行事のもち方を勉強する必要がある。	・幼児の特性を捉えて丁寧に関わっておられる様子が伺える。 ・先生達が互いに連携をとれるよう工夫していることが分かる。	A
教師の資質向上を目指す。	・各学年の遊びや活動の連携や学びの連続性、気になる幼児のことについて話し合い、互いの保育に活かすことが出来た。また、小学校につながる学びについて考慮したクラス便りやドキュメンテーションを作成し、共通理解を深めた。 ・保護者からの意見や上司からの指導を真摯に受け止め、反省し、課題を見つけ、フィードバックしながら保育に努めた。	B	・今年度もソニーの科学する心に事例を出し奨励賞をいただいた。最新の保育情報を取り入れ、見分を広める努力をしたことで幼児理解が深まった。 ・ピワ染めや、セミの動画撮影など教師自身も楽しんだ。また様々な外部講師の力を借りることで、チームで取り組む必要性にも気付いた。 ・職員間で話し合うことで各学年の保育が分かり、良い所は取り入れて保育することができた。新任教師も同じ方向性で保育ができるように協力しながら行った。	・園や幼児の実態に合わせた保育や行事に、教師が主体的に取り組むことが必要である。教師同士で相談していく。 ・教材研究も教師同士の伝承が必要だと感じた。ネットで様々なことを調べられるが、幼児の実態に合うかの判断は経験値も必要である。まずは自ら周りに発信する姿勢を見せ職員全体で教材研究をする場や時間をつくりたい。 ・気になる幼児についての共通理解をより深めていく必要がある。特に3歳児で排泄が未確立の幼児についての共通理解や方向性をより深めることで良い手立てができると思われる。	・今までの保育の経験や伝統を大切にしながらも最新の保育情報を取り入れる学びへの意欲を感じる。 ・子供達のことを考えて理解されている姿が安心する。	A
地域に開かれた園作りを行う。	・コロナ禍においてできる限り地域や小、中学校との連携が密になるよう努めた。また、五校園長会、合同補導やユニット会議などの内容を共通理解し、地域、小、中学校との連携を深めた。	B	・コロナ禍であることは変わらないが、やや落ち着いてきていることもあり、交流活動ができるようになって良かった。特にユニット活動で情報交換をしたり、小学校の校庭散策や合同津波避難訓練の他加古川中学校の家庭科の授業で作った手作り玩具をいただいたり、新しい取り組みにも取り組んでいる。	・コロナ対策が緩和されることで、ユニット活動が再び活発になることも期待される。幼児にとって必要な連携となるように、企画していきたい。 ・ノーマスクでの感染症対策の方法や行事のもち方などより地域やユニット学校園との連携をとっていきたい。	・コロナ禍の中、工夫して新しい取り組みにも挑戦されていることが素晴らしい。 ・小学校や地域とのつながりがよりもてるようにして欲しい。	B